

なぜのない世界



Categorical Imperative

なぜ、「なぜのない世界」の視点が必要なのか。そもそも、なぜのない世界となぜのある世界とはどう違うのか。

ご飯を食べる、なぜ食べるのか。毎日働く、なぜ働くのか。そんなことは聞くまでもなく、生きてゆくため、家族を養っていくためである。普通私たちの行動は、何らかの理由を伴って発生する。犯罪者に対しては、その犯罪の動機が問われる。物事の因果関係が不明瞭な行動をとる人に対しては、精神鑑定さえ求められる。私たちはごく自然に、なぜのある世界に住んでいるのである。

では、これはどうだろう。なにか旨いものを食べたとき、ああ、美味しい！と感激する。なぜ美味しいと思うのか。聞くだけ無駄なこと。美味しいからおいしいのである。真っ赤な夕焼けに心うたれたとき、つい言葉がでる。ああ、なんとキレイな自然。なぜキレイなのか。きれいだからキレイなのである。この直感的な発想（なぜのない世界）を日常の行動にあてはめたらどうであろうか。

只管打坐（しかんたざ）

ひたすら坐ることを、禅語で只管打坐と呼ぶ。坐禅のことである。なぜ坐禅をするのか。精神統一のため、悩みから解放されるため、いい仕事にむすびつけるため、人それぞれの理由はある。しかし禅では、坐るために座りなさい。ひたすら坐りなさいという。ええ、それでは何の得にもならないではないか。ここが肝心のポイントである。つまり、坐禅はじっと坐ること、そのこと自身に意味がある、という考え方なのである。



例えば、電車の中でお年寄りに席を譲るシーンを思い浮かべてみよう。席を譲る私と譲られた人との間で、「席をどうぞ」「ご親切にありがとうございます」という会話が交わされるであろう。しかし、もし譲られた方が何も言わず坐っていたとしたら、どうであろう。私は不快な感じを抱く。ということは、私は私の行動に対する何らかの評価を期待していたことになる。これはなぜの世界である。

もし“席を譲る”という行為が、それ自身に意味があると感じ、その後の評価（見返り）を期待しなければ、相手の態度によって、不快感をもつ必要はない。良いことをする。なぜか、それは良いことだからそれを実行する。ただそれだけのことである。なぜのない世界とはこのことなのである。哲学者カントは、この考え方を「定言命法」と呼んだ。叡智界からの呼びかけに呼応する思考と行動のことである。

<事例 DVD 等>

映画「殿、利息でござる」より、“つつしみの掟”
サンデル教授 / 定言命法 / すること vs. すべきことの領域
コモンセンスの勝利 / オバマ元大統領 / 国民皆保険制度
吉田松陰 / 黒船へ向かう問答無用
妻が夫にキレるわけ / それはつらかったね
黒川伊保子著「妻のトリセツ」講談社新書 2018 年
米国脳科学者・Jill Bolte Taylor / 言葉を失って得た感覚
歌・森山直太郎 / どこもかしこも駐車場

円了のホームページ: www.enryo.jp



なにか良いことをしようとするとき、
貴方の右手がすることを、
左手に知らせてはならない

マタイによる福音書より